

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団	代表者	野口雅滋	法人・ 事業所 の特徴	事業所の理念【「思い」「暮らし」「絆」を支援する】を職員全員が共有し実践できる体制を構築し、利用者の「思い」の実現に向けた支援を目指しています。事業所は長年、地域の人々に親しまれた集会場を改修し併設され、地域福祉の拠点となっています。地域行事等、地域の住民協働による活動に積極的に参画し、地域との繋がりを大切に事業運営をしています。
事業所名	京都厚生園 松尾の家	管理者	鈴木雅子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	1人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・サービス評価、運営推進会議、ご利用者支援、事業所の取組みが連動できる仕掛け、仕組みの検討実施(継続)	サービス評価に初めて取り組む職員には個別に説明を実施した上でサービス評価に取り組んだものの、仕掛け・仕組みの検討にまでは至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> このサービス評価そのものがどうなのかと思うところもあるが、毎年大変ですね。 職員全員が意識して取り組んでいることが分かった。 特に利用者への支援において、出来ていると評価した職員が増えている・維持できているのは良いことだと思う。 	・サービス評価、運営推進会議、ご利用者支援、事業所の取組みが連動できる仕掛け、仕組みの検討実施(継続)
B. 事業所のしつらえ・環境	・運営推進会議に限らず、地域の方や関係機関に事業所内を見ていただく機会を増やす。そのうえで客観的な意見をいただき環境改善につなげる。	今年度も、1回目の運営推進会議にて事業所内見学を実施したものの、委員の方々からご意見を頂くまでの機会には至っていない。 事故対策のひとつとして事業所玄関先の設えを変更した際には実際に見て確認してもらい、率直なご意見を頂けたのは大変有り難かった。	<ul style="list-style-type: none"> コロナの流行以降、高齢者施設への入りにくさは続いており、閉鎖的な環境には繋がっている。落ち着いたとはいえ、まだまだ影響は残っている。 臭いについて、特に気になることはない。 事業所に来た時だけだが、いつもカギは開いている。 	・運営推進会議に限らず、地域の方や関係機関に事業所内を見ていただく機会を増やす。また、ブログ等を活用し、ご家族にもどのような雰囲気をご利用者が過ごされているか発信を行う。その上で客観的な意見をいただき環境改善につなげる。
C. 事業所と地域のかかわり	・今までにこだわらずボランティア受け入れ再開をする。	ボランティアの受入再開に向け、個人ボランティア募集のチラシを事業所玄関に貼り出してみたが、お声はかからず。結果的には今年度もボランティア受入再開には至らなかった。 地域行事への参加は、前年度と同様、作品展や子ども祭りに参加させて頂き、一部ご利用者には子供たちと一緒に過ごす機会を作ることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所が相談しやすいかどうかというと、2階に地域包括支援センターがあるので相談しやすい場所になっていると思う。役割分担ができているということの良いことではないか。 井戸パークと言えば、松尾の家/井戸会議所で浸透しており、松尾学区の方にはよく知られている。 松陽や嵐山東学区の方がどのように感じているかは分からない。 事業所のスタッフがどこまで行事やイベントに参加しているかどうかは、分りにくい。 	ボランティア受け入れ再開に向けて行動を起こす。(継続) 地域活動や交流に参加する機会、参加する職員を増やす。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別事例を通してご利用者と地域、今までの繋がりを大切にしてネットワークづくりを実践（継続） 	<p>全利用者にはできていないが、ひき続き、ご利用者のこれまでの繋がりを大切に、地域住民やお店の方等とのネットワーク作りを積極的に行うことが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいまつりについて、過去ボランティアがご利用者の付き添いをしていたが、そのボランティアが高齢になり対応が難しくなっている。ただ事前に相談しておいてもらえたら調整は可能な為、もし次年度参加されるなら声かけてくれたら良い。 ・地域や関係機関との情報共有が大切だと思う。松尾学区では老人福祉員が中心となり活動をしているが、負担が大きくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別事例を通してご利用者と地域、今までの繋がりを大切にしてネットワークづくりの実践を増やす
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他学区、ご利用者、ご利用者家族に参加いただける会議にする。 	<p>運営推進会議の開催方法や内容については検討、修正までは至らず。参加者についても工夫改善を図れなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問項目が難しい。 ・地域の心配な方等の事例検討を行うのは難しいと思う。包括が事例を出して検討するものではないかとも感じる。 ・現役のご利用者家族の参加ができると良い。そうすることで今のサービスの評価がもらえると思う。 ・民生の会議で、地域の心配な方の相談はしている。 ・まだまだ地域には心配な方がたくさんいて、包括も把握できていない、介入できていない方もいるのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の参加も含め、他学区、ご利用者、ご利用者家族に参加いただける会議にする。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時事業継続計画の見直し（まずは拠点レベルでの防災、災害対策の見直し（継続） 	<p>災害時事業継続計画の見直し、訓練の実施は行えたものの、松尾の家として災害発生時の協力体制などの検討には至らなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に松尾の家が頼りになれば越したことはないが、地域としても松尾小学校を避難場所として対策や準備はしている。高齢者の対応もあり、どちらかという地域が助けないといけない場面もあるかもしれない。 ・松尾学区内には車椅子を5台準備している。 ・松尾学区内には古い建物が多いため倒壊する危険性が高い。その中で、松尾の家は新しい建物であり、そういう意味でも頼りになると思う。 ・地域としては公共性の期待もあると思う。 ・まずは地域を頼ること。近隣に助けを求めてくれたら良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時事業継続計画の見直し（まずは拠点レベルでの防災、災害対策の見直し（継続）